

平成 27 年度事業報告

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

平成 27 年 6 月 9 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、平成 26 年度事業報告の件を報告し、

第 1 号議案 平成 26 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件

第 2 号議案 役員の報酬等及び費用に関する規則の改正承認の件

第 3 号議案 理事及び監事の選任の件

を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については退会 1 法人、個人会員については入会 302 名、退会 192 名があり、平成 28 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

退会法人会員

ハートフォード生命保険株式会社

以上 1 法人

正 会 員	1,579 名
準 会 員	1,318
研 究 会 員	1,963
小 計	4,860
法 人 会 員	110 法人
合 計	4,970 名・法人

3. 事業報告

〔試験関係〕

(1) 平成 27 年度資格試験の実施

平成 27 年 12 月 14 日、15 日及び 16 日の 3 日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、平成 28 年 2 月 16 日に合格者を発表した。第一次試験の受験科目総数は、3,411 科目、うち合格科目数は 821 科目、第二次試験の受験科目総数は 1,301 科目、うち合格科目数は 170 科目、全科目合格数は 82 名であった。

(2) 平成 27 年度 CERA 試験の実施

平成 27 年 10 月 12 日に TKP 大手町カンファレンスセンターにおいて実施し、平成 28 年 1 月 18 日に合格者を発表した。受験者数は 56 名、うち合格者数は 8 名であった。

(3) 教科書の改訂等

「年金」教科書を改訂した。また「生命保険数学（上・下）」の発行元を「生命保険文化研究所」から「日本アクチュアリー会」に変更した。

〔教育・研修・研究発表関係〕

(1) 平成 27 年度アクチュアリー講座の実施

平成 27 年 5 月 8 日から平成 27 年 10 月 13 日の期間、基礎講座 12 科目及び特論講座 7 科目を実施した。受講者数は基礎講座 106 名、特論講座 40 名であった。

(2) 平成 27 年度関西委員会アクチュアリー講座の実施

平成 27 年 8 月から平成 27 年 10 月の期間、生保数理、年金数理の 2 科目について、関西委員会アクチュアリー講座を実施した。受講者数は生保数理 3 名、年金数理 4 名であった。

(3) 平成 27 年度アクチュアリー追加演習講座の実施

平成 27 年 10 月 1 日から平成 27 年 12 月 2 日の期間、生保数理演習、損保数理演習、年金数理演習及びモデリング演習の 4 科目を実施した。受講者数は生保数理演習 45 名、損保数理演習 59 名、年金数理演習 40 名、モデリング演習 12 名であった。

(4) 平成 27 年度年次大会・IT 研究大会の開催

年次大会は、平成 27 年 11 月 10 日、11 日の 2 日間、経団連会館及び東京ステーションコンファレンスにおいて、IT 研究大会は、平成 28 年 1 月 21 日、22 日に三井生命本店（大手町野村ビル）において開催した。

(5) 例会の開催

① 平成 27 年 5 月 26 日

「CERA について理解を深めよう ～ERM 資格委員会の活動を振り返って～」

吉村 雅明 君（ミリマン）

松平 直之 君（キャピタスコンサルティング）

白井 健史 君（東京海上ホールディングス）

② 平成 27 年 7 月 16 日

「The IFoA Qualification Process for CERA

（CERA に向けた英国アクチュアリー会の資格認定プロセス）」

Trevor Watkins 氏（IFoA）

Lindsay Smitherman 氏（IFoA）

③ 平成 27 年 7 月 24 日

「保険における非合理性」

Jaqui Wassenaar 氏（RGA）

④ 平成 27 年 8 月 31 日

「相手に合わせて分かりやすく伝えるプレゼンテーションのポイントとは」

清水 裕一 氏（コアインテグリティー）

⑤ 平成 27 年 9 月 9 日

「日本における死亡率トレンド Longevity in Japan」

アンドリュー・リア 氏（ミュンヘン再保）

⑥ 平成 27 年 10 月 19 日

「逆風下のドイツ生命保険業界 -そよ風か、強風か、ハリケーンか？」

ウルリッヒ・パスディカ 氏（Gen Re）

⑦ 平成 27 年 12 月 3 日

「Recent Developments in UK Pensions - Regulatory, Financial and Behavioural Change」

ポール・スウィーティング 氏（LGIM）

⑧ 平成 28 年 2 月 16 日

「人口減少社会における医療の質の向上と持続可能性の両立

-ビッグデータ時代における課題と展望-

宮田 裕章 氏 (慶應義塾大学)

(6) 関西委員会例会の開催

① 平成 27 年 8 月 28 日

「社会保障制度改革とアクチュアリー役割 ~医療制度改革を中心として~」

野呂 順一 君 (ニッセイ基礎研究所)

② 平成 27 年 11 月 6 日

「新聞記者から見た金融行政」

京屋 哲郎 氏 (株式会社読売新聞大阪本社)

③ 平成 28 年 2 月 5 日

「分析力で会社に貢献するために必要な能力とマインド

~大阪ガスでの 15 年間の経験を踏まえて~」

河本 薫 氏 (大阪ガス株式会社)

④ 平成 28 年 3 月 2 日

「平成 27 年度関西委員会分科会活動報告」

各分科会

(7) ムーンライトセミナーの開催

平成 27 年 11 月から平成 28 年 3 月にかけて以下のテーマで開催した。

① エージェントベースモデリングの導入と実践

岩崎 宏介 君 (ミリマン)

松山 科子 氏 (ミリマン)

② 保険会社の ERM を考える—理念から実務へ

土井 和行 君 (タワーズワトソン)

嶋田 以和貴 君 (タワーズワトソン)

③ The Minimum Bias Procedure – A practitioner’s Guide (January 2002)を読む

内藤 和晃 君 (早稲田大学)

④ 従来では取得できなかった情報に基づくデータの損害保険料率への反映について

セミナー部会委員

⑤ 保険負債に内在するオプション性の市場整合的評価

~オブジェクト指向言語を用いたツール開発~

宅味 丈夫 君 (ソニー生命)

門脇 大輔 君 (ソニー生命)

(8) 関西セミナーの開催

① 平成 28 年 2 月 15 日

「保険会社における資産・負債評価のためのプロキシ・モデルの使用について」

「死因別死亡率から見た将来死亡率推計」

「Scale function による Value function の表現とそのリスク管理への応用」

「open モデルによるボーナス・マラス制度(BMS)の保険料決定と考察」

「小データでのリスク定量モデルについての一考察」

「Vine コピュラによる相互関係構造把握と、信用システミック・リスクの定量的評価について」

(9) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに以下のコンテンツを公開した。

- ① 生保の実務基準（平成 27 年 3 月 4 日改訂版）
- ② 退職給付会計に関する数理実務基準（平成 26 年 11 月 25 日改訂版）
- ③ 職場での衝突：衝突を解決するための戦略
- ④ ストレストテストとシナリオ分析
- ⑤ グループ内再保険取引
- ⑥ EU ソルベンシーII における LTGA 技術的仕様書・結果報告書
- ⑦ 2013 年度 Open Discussion Forum
- ⑧ 2012 年度国際基準実務検討部会（生保）調査報告書（SOA「Model Efficiency Study Results」）
- ⑨ 経済価値ベースのソルベンシー規制に係る技術的検討 諸外国等の規制動向（1.EU）
- ⑩ Stochastic Modeling
- ⑪ エンタープライズ・リスク・マネジメントにおけるリスク評価
- ⑫ エンタープライズ・リスク・マネジメントにおけるリスク対応
- ⑬ 意思決定および ORSA のためのリスク尺度
- ⑭ 一から学ぶ国際会計基準
- ⑮ プライシングのための予定利率
- ⑯ 平成 26 年財政検証の結果と経済前提の設定について
- ⑰ 将来死亡率推計と年金アクチュアリー
- ⑱ IAIS の基礎的資本要件（BCR）および国際的な保険資本基準（ICS）
- ⑲ 医療経済評価とアクチュアリー
- ⑳ アクチュアリー業務における R の活用
- ㉑ そうだったのか！ORSA～コンプライアンスを超えて～
- ㉒ アクチュアリーとベイズ統計学
- ㉓ 2013 年度 ERM Web Cast
- ㉔ プロフェッショナルリズム研修（継続教育）（動画）
- ㉕ 生命保険会社の保険計理人の実務基準について（動画）
- ㉖ IAIS の国際的な保険資本基準（ICS）について（動画）
- ㉗ ソルベンシー II 導入前夜（動画）
- ㉘ 企業年金部会の報告書とその後の展開について（動画）
- ㉙ 一から学ぶ国際会計基準（動画）

(10) アクチュアリー海外研修の実施

生保、年金、損保をテーマとする 3 班に分かれて、第 5 回アクチュアリー海外研修を実施した。損保班は英国アクチュアリー会（IFoA）の General Insurance Research Organization への参加を中心に、平成 27 年 10 月 19 日から 31 日の期間で研修を行い、生保班及び年金班は IFoA の Life Conference への参加を中心に、平成 27 年 11 月 17 日から 28 日の期間で研修を行った。参加者は、生保班 24 名、年金班 3 名、損保班 6 名であった。

(11) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① 平成 27 年 10 月 9 日にプロフェッショナルリズム研修（継続教育）を以下の研修内容で実施した。

IAAにおけるプロフェッショナリズムの取組み 村田 富生 君（三井生命）
吉村 雅明 君（ミリマン）
プロフェッショナリズムに関して 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
藤澤 陽介 君（RGA）

- ② 平成 28 年 2 月 26 日、正会員（今年度の資格試験で全科目に合格した準会員を含む）及び準会員（今年度の資格試験で基礎科目すべてに合格した者を含む）を対象に次の研修内容で実施した。受講修了者は、100 名であった。

IAA シラバスとプロフェッショナリズム	村田 富生 君（三井生命）
アクチュアリーと行動規範について	奈良 伸一 君（明治安田生命）
生保のプロフェッショナリズム	渡部 仁 君（日本生命）
損保のプロフェッショナリズム	金子 洋巳 君（損保ジャパン日本興亜）
年金のプロフェッショナリズム	片寄 郁夫 君（りそな銀行）
継続教育制度（CPD）について	片寄 郁夫 君（りそな銀行）

(12) CERA に関する研修等の実施

- ① 平成 27 年 7 月 17 日に IFoA の Lindsay Smitherman 氏による「ST9 チュートリアル」と「CERA に関する講義」を開催した。
- ② 平成 27 年 11 月 13 日、14 日の 2 日間、CERA 試験の受験者を対象に、リスク管理・ALM 等に関する講義やケーススタディーによるグループワークを行った。受講修了者 18 名であった。

(13) Open Discussion Forum について

平成 27 年 12 月 2 日、アクチュアリー会大会議室にて Open Discussion Forum を開催し、外国人アクチュアリーなどと英語によるディスカッション等を行った。

〔調査・研究活動〕

(1) 標準死亡率諮問委員会の開催

平成 27 年 10 月 30 日に開催された第 21 回標準死亡率諮問委員会において、「生保標準生命表 2007（死亡保険用）」、「生保標準生命表 2007（年金開始後用）」及び「第三分野標準生命表 2007」について、平成 28 年度に継続適用することが了承された。

(2) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準については、IASB（国際会計基準審議会）及び IAIS（保険監督者国際機構）において精力的な検討がなされており、それぞれの機関会員である IAA（国際アクチュアリー会）は、アクチュアリー専門職団体として、委託研究等の活動を行っている。本会は、IAA の委員会活動に積極的に参画するとともに、国際基準対策委員会等において経済価値ベースのソルベンシー規制についての検討などを進めている。また、平成 27 年 5 月に IAIS 事務局メンバーが来日されたのを機に、ICS（国際的な保険資本基準）などについて意見交換を実施した。

(3) 実務基準の整備

- ① 企業会計基準委員会から改正企業会計基準適用指針第 25 号「退職給付に関する会計基準の適用指針」が公表されたことに伴い、「退職給付会計に関する数理実務基準」及び「退職

給付会計に関する数理実務ガイダンス」について、平成 27 年 6 月に所要の改定を行った。

- ② 「全国共済農業協同組合連合会の共済計理人の実務基準」及び「全国共済水産農業協同組合連合会の共済計理人の実務基準」について、平成 28 年 3 月に所要の改定を行った。
- ③ 「IAS19 に関する数理実務基準」を、平成 28 年 3 月に制定した。

(4) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討 WG において、保険商品数理に関する検討を行い、金融庁に中間報告書を提出した。

(5) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[意見表明]

(1) IAA のカウンスルでの投票（電子投票を含む）

- ① 平成 27 年 4 月、公式声明の作成に関するデュープロセス等に関して、賛成として投票を行った。
- ② 平成 27 年 4 月、エクゼクティブ・コミッティーの委員の任命に関して、賛成として投票を行った。
- ③ 平成 27 年 5 月、2014 年度の監査済の財務諸表（案）の承認に関して、賛成として投票を行った。
- ④ 平成 27 年 6 月、指名委員会の委員の任命に関して、賛成として投票を行った。
- ⑤ 平成 27 年 7 月、2016 年度の会費等に関して、賛成として投票を行った。
- ⑥ 平成 27 年 7 月、ISAP の戦略的なアクションプラン等に関して、賛成として投票を行った。
- ⑦ 平成 27 年 10 月、会員資格等に関し、賛成として投票を行った。
- ⑧ 平成 28 年 1 月、内部規程の改正及び覚書の使用に関する方針の改正に関して、賛成として投票を行った。
- ⑨ 平成 28 年 2 月、指名委員会の委員の任命に関して、賛成として投票を行った。
- ⑩ 平成 28 年 3 月、IASP のデュープロセスの改定に関して、賛成として投票を行った。
- ⑪ 平成 28 年 3 月、2015 年度の監査済の財務諸表（案）の承認に関して、賛成として投票を行った。

(2) 平成 27 年 7 月、IAA に対し、IAA 教育シラバス改訂案に対する意見を提出した。

(3) 平成 27 年 7 月、IAA に対し、ISAP [1A]（モデルのガバナンス）作成趣意書案に対する意見を提出した。

(4) 平成 27 年 11 月、IAA に対し、IAA 教育シラバス改訂案に対する意見を再提出した。

(5) 平成 28 年 2 月、IAA に対し、ISAP [1A]（モデルのガバナンス）草案に対する意見を提出した。

(6) 平成 28 年 2 月、IAA に対し、ISAP5（保険会社の統合リスクモデル）草案に対する意見を提出した。

(7) IAA 公式声明作成開始案件

次の案件に対する IAA 公式声明について、本会からは作成開始に反対する意見は表明しなかった。

- ① 平成 27 年 8 月、IASB 年金会計の要求事項の狭い範囲の修正提案
- ② 平成 27 年 8 月、IAIS グローバルなシステム上重要な保険会社（G-SIIs）に対する資本上乘せ基準の市中協議文書
- ③ 平成 27 年 8 月、IAIS 業務リスクとその管理に関する規制の市中協議文書
- ④ 平成 27 年 8 月、IAIS 保険基本原則（ICPs）の改訂の市中協議文書
- ⑤ 平成 27 年 8 月、IASB 財務報告に関する概念フレームワークの改訂の公開草案
- ⑥ 平成 27 年 10 月、OECD 私的年金規制の主原則の市中協議文書
- ⑦ 平成 27 年 11 月、COP21 気候変動への取組みに対する声明
- ⑧ 平成 27 年 11 月、IPSASB 社会給付の認識及び測定の市中協議文書
- ⑨ 平成 27 年 12 月、IASB アジェンダコンサルテーション
- ⑩ 平成 28 年 1 月、IASB 現行の IFRS 第 4 号を修正する提案の公開草案
- ⑪ 平成 28 年 3 月、OECD 災害リスクに対する財務上の戦略に関する公開草案
- ⑫ 平成 28 年 3 月、UNFCCC 気候変動の影響と関連した損失・損害のリスクに対処するすべてのレベルで既存の金融手段から学ばれる最善の実務、課題と教訓に関する情報提供募集

〔国際関係〕

(1) IAA 活動

IAA の委員会活動に積極的に参画し、IAA から IASB、IAIS 等への意見発信に参画している。また、ICA2026 の開催地募集に対して、日本での開催意志を表明し、ICA2026 招致の申請書類を提出した。

(2) 第 43 回東アジア・アクチュアリー講座（ASEA）の実施

平成 27 年 9 月 15 日から 18 日までの 4 日間にわたり、東アジアを中心とする 10 地域から 36 名の参加を得て、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等についての講義を実施した。

(3) 国際会議等への派遣等

次のとおり国際会議等に会員を派遣した。

- ① 平成 27 年 4 月 7 日～12 日 IAA 会議（於：スイス チューリッヒ）
村田 富生 君、坂本 純一 君、小野 正昭 君、河野 年洋 君、重原 正明 君
中村 吉男 君、池田 真次 君、吉村 雅明 君、山崎 浩 君
- ② 平成 27 年 5 月 17 日～ 19 日 アクチュアリーサミット（於：オーストラリア メルボルン）
村田 富生 君
- ③ 平成 27 年 6 月 7 日～ 10 日 PBSS・LIFE・IACA コロキアム（於：ノルウェー オスロ）
坂本 純一 君、辻 芳彦 君、日下部 健児 君
- ④ 平成 27 年 8 月 23 日～ 27 日 ASTIN・AFIR/ERM コロキアム（於：オーストラリア シドニー）
大塚 裕次朗 君、山下 実若 君、森本 祐司 君、白井 健史 君、市川 太佳之 君
- ⑤ 平成 27 年 9 月 22 日～ 23 日 中国アクチュアリー会年次大会（於：中国 北京）

前林 義明 君

- ⑥ 平成 27 年 10 月 11 日～ 14 日 SOA 年次大会 (於:アメリカ オースティン)
永田 光宏 君
- ⑦ 平成 27 年 10 月 14 日～18 日 IAA 会議 (於:カナダ バンクーバー)
浅野 紀久男 君、村田 富生 君、坂本 純一 君、関根 賢二 君、河野 年洋 君、重原 正明 君
中村 吉男 君、池田 真次 君、吉村 雅明 君、辻 芳彦 君、山崎 浩 君、前林 義明 君
- ⑧ 平成 27 年 11 月 3 日～6 日 AAC 会議 (於:タイ バンコク)
村田 富生 君、前林 義明 君
- ⑨ 平成 27 年 11 月 15 日～18 日 CAS 年次大会 (於:アメリカ フィラデルフィア)
菅田 克彦 君

(4) SOA ERM Webcast2015

平成 27 年 12 月 10 日に行われた ERM に関する Webinar の開催に SOA 等とともに参画した。

(5) 国際交流

- ① 平成 27 年 4 月に、インドネシアの CRMS の派遣者 22 名が来局し、意見交換を実施した。
- ② 平成 27 年 6 月に、ASHK アジア委員会メンバーの来局があり、意見交換を実施した。
- ③ 平成 27 年 9 月に、SOAT 理事の来局があり、意見交換を実施した。
- ④ 平成 27 年 10 月に、浅野理事長が CIA を訪問し、創立 50 周年に対して祝辞を述べるとともに、意見交換を実施した。
- ⑤ 平成 27 年 11 月に、村田副理事長が SOAT を訪問し、創立 40 周年に対して祝辞を述べるとともに、意見交換を実施した。
- ⑥ 平成 27 年度年次大会に、IAA 会長及び IFoA、SOA、台湾アクチュアリー会からご来賓をお招きし、国際交流を図った。
- ⑦ 平成 28 年 1 月に、IAA 事務局メンバーの来局があり、意見交換を実施した。

〔評議員会〕

- (1) 平成 28 年 2 月 23 日に平成 27 年度評議員会を開催し、平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業計画 (案)、プロフェッショナルリズム教育のあり方について審議した。

〔産学共同〕

- (1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君 (住友生命)、上原 尚 君 (住友生命)、大嶋 孝造 君 (住友生命)、鈴木 剛 君 (住友生命)、杉本 和大 君 (大同生命)、片寄 郁夫 君 (りそな銀行)、豊留 健 君 (日本生命)、中山 素生 君 (日本生命) 及び南 嘉博 君 (日本生命) を派遣した。
- (2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君 (住友生命)、堀井 俊宏 君 (大同生命) 及び森 教輔 君 (日本生命) を派遣した。
- (3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君 (住友生命) を派遣した。
- (4) 東京大学より社会数理特別講義の講師派遣の依頼があり、中村 亮一 君 (日本生命) を派遣した。

- (5) 日本統計学会より公開オンライン講座の講師の依頼があり、杉田 健 君（三井住友信託）を派遣した。
- (6) 平成 27 年 9 月 12 日に京都産業大学で日本数学会主催の「伊藤清生誕百年記念市民講演会」が開催され、本会は後援団体として協力した。
- (7) 平成 28 年 1 月 18 日から 1 月 22 日に京都大学で日本アクチュアリー会の協賛として Steven Haberman 教授（シティ大学ロンドン）による連続講義が開催された。

〔表彰関係〕

(1) 平成 26 年度資格試験成績優秀者の表彰

① 理事長特別賞・理事長賞の授与

平成 27 年 6 月 9 日に、渡辺 良太 君（アメリカン・ファミリー生命）に理事長特別賞を、宿利 雄太 君（第一生命）、藤田 卓 君（第一生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀賞の授与

同日、数学 1 名、生保数理 2 名、損保数理 1 名、年金数理 1 名、会計・経済・投資理論 2 名、生保 1 1 名 生保 2 1 名を表彰した。

(2) 優秀論文の表彰

① 平成 27 年 11 月 10 日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「ボーナス・マラス制度に関する一考察」

黨 哲二君（損保ジャパン日本興亜）

② 平成 28 年 1 月 21 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「未来のスマートシティにおけるライフログと保険」

（IT 研究会第 2 グループ）

〔広報・出版活動〕

(1) 広報活動

① 学生を主な対象とした「第 24 回アクチュアリーセミナー」を平成 28 年 1 月 23 日に東京及び大阪において実施した。参加者は、東京 46 名、大阪 35 名であった。

(2) 情報提供機能の充実

① 本会の HP で公開している「アクチュアリー用語集」について、平成 27 年 5 月に用語の充実を図った。

② 「生命保険数学（上巻・下巻）」の著者である二見隆氏のご功績を讃え、平成 27 年 11 月に図書室内に「二見隆ライブラリー」を開設した。

③ 中高生にアクチュアリーや保険・年金などについて関心をもっていただくため、平成 28 年 1 月に本会の HP の「アクチュアリークイズ」をリニューアルした。

(3) 広報誌の改訂

前回の改訂からの経過年数などを踏まえ、広報誌を 6 月に改訂した。

(4) 会報等の刊行

次のとおり各種の刊行物を発行した。

- ① 会報 第 68 号
- ② 会報別冊 第 273 号「ソルベンシー資本要件計算の標準的公式における基本的な前提
(EU ソルベンシーII)」
第 274 号「第 5 回アクチュアリー海外研修報告」
第 275 号「収益発生認識：5 つの財務報告基準における保険会計」
第 276 号「第 55 回 IT 研究大会報告」
- ③ アクチュアリージャーナル
第 91 号、第 92 号、第 93 号、第 94 号
特別号「リスクと保険」第十二号
- ④ 平成 27 年度 資格試験問題集
- ⑤ 平成 27 年度 年次大会報告書